

去年より100人以上増え

収穫祭に670人、最多を更新

10回目を迎えた鎌倉広町緑地の収穫祭は11月21日(土)、晴天に恵まれ、紅葉に映える小竹ヶ谷の林で催されました。スタッフ105人をふくめ、670人が参加。去年の557人を100人以上うわ回り、最多数を更新しました。



県立鎌倉高校の生徒5人が、同校独自のカリキュラム「かまくら学」に沿って参加。その生徒をふくめ、参加者のうち高校生以下が275人、約41%でした。

子どもたちが調理に参加

おにぎり、お餅、芋煮、焼き芋の調理が始まって間もない8時半すぎ、小

2女子の6人連れが受付を済ませると、「何かお手伝いできること、ありますか」。6人はおにぎりの調理テントに案内され、フードパックに入れたおにぎりにゴマを振り、輪ゴムを掛けました。やがて販売が始まると、1パック・調理実費100円の売り役を務めました。

お餅班でも、小5女子2人がカマドの火の番を務めるなど、ことしも子どもたちが「お客」でなく、主催側に積極的に加わる姿が目立ちました。



松尾市長が4年ぶりに挨拶

11時から開会式。松尾崇市長が4年ぶりに参加し、あいさつの中で、田んぼや畑を復活させ、樹林の手入れや園路の整備をしつつ、収穫祭を準備した市民ボランティアに対する評価に触られました。

そのあと、食品の販売が本格化すると、お餅、芋煮の販売台の前には、長い行列ができ、一時は列が50メートルを超えました。お餅の場合、30キロ・15白分の530食を売りつくし、「残ったアンコだけでも」と、50円の半額で求めた人も出ました。

畑で収穫したサトイモをたっぷり入れた芋煮は、444食が売れました。小2女子6人も、おにぎり522パックを完売しました。

園路を挟む向かい側で、新しい稲藁を使う正月飾り作り、藁と竹材を組み合わせるミニ門松作り、杉材の輪切りを加工するコースター作りの3教室が開講。それぞれに人の輪ができました。

この収穫祭は認定NPO法人・鎌倉広町の森市民の会と同会が運営する広町田んぼ、畑、森、自然観察、散策路の会が組織した収穫祭実行委員会が企画し、2か月前から準備して催しました。



収穫祭の参加数

(06~14年)

第1回	226人
2	474
3	508
4	422
5	519
6	132
7	480
8	536
9	557